

縄文時代に思ふはせむ

「曾利遺跡」国史跡追加指定記念講演会

井戸尻考古館 高橋さん（早稲田大）ら解説

富士見町井戸尻考古館は22日、「曾利遺跡」（同町境）が

国の史跡へ追加指定されたことを記念する講演会を同町コミニティ・プラザで開いた。出席した住民や考古学者フ

アン120人が、早稲田大学名誉教授で山梨県立考古博物館長の高橋龍三郎さんと、元井戸尻考古館長で縄文研究者的小林公明さんの話を聞き、縄文時代に思いをはせた。

（佐々木孝彦）

曹利遺跡は、現在の井戸尻考古館の敷地を含めた面積1万3459平方㍍。縄文時代の大集落跡で、これまでに貴

重な遺物が数多く出土している。今年9月18日には1966年に国史跡になった井戸尻遺跡へ追加され、名称は井戸

戸尻遺跡と曾利遺跡を含む「井戸尻遺跡群」になった。

この日は2人の講師がそれぞれ講演した後、現館長の小松隆史さんを交えたトークセッションを実施した。

高橋さんは縄文時代の八ヶ岳西南麓や山梨県、関東地方の遺跡に見られる環状の集落跡について解説。井戸尻遺跡群の藤内遺跡などから出土した過剰な装飾を施した土器について「証明はされていないが、縄文中期の大型で過剰装飾の土器は実用的でなく、埋葬をする際、その時々の土器を死者に対する装飾に使つたのではないか」と推測した。

小林さんは「集落と住居と家族」と題して講演。遺跡調査の過程で分かった井戸尻遺跡群の特徴を説明した。小松館長は「全国的に見れば失われていく遺跡が多い中で、曾利遺跡を国の史跡として守ることの意味は大きい。活用しながら未来に向けて保存する遺跡にしたい」と話した。

